

功労者部門：野上 操 氏（日置市）

経 歴



- ・ 大正15年、日置市東市来町生まれ。
- ・ 祖父の兄にあたる野上休右衛門が明治21年から45年もの歳月をかけて開墾した尾木場の石積みの棚田「休右衛門新田」を、休右衛門さんから農業の手ほどきを受け、70年あまり守り続けている。
- ・ 棚田保全の取組が、尾木場を含む高山地区全体のむらづくり活動に波及し、都市農村交流など地域住民の一体的な活動につながっている。

- ・ 平成27年に隣の集落に住む遠縁の立和名博記氏(58歳)が、野上氏の棚田に対する思いを受け継ぐ頼もしい後継者として、野上氏のこれまでの経験や知識を受け継いでいる。

これまでの功績の概要

<棚田を中心とした農村振興や農地の保全>

- ・ 農業体験や研修受入などの都市農村交流で豊かな農山村の魅力を伝えながら、地域の先頭に立ち、棚田を中心とした農村振興や農地の保全、人づくりに尽力し、その活動は高山地区全体に波及している。
- ・ 尾木場の棚田を活用し、田植えや稲刈りを体験する「尾木場めだかの里米作り体験」や、ツワ・ノビル採り、タケノコ掘りを体験する「尾木場めだかの里散策&山菜狩り」などの交流活動に積極的に関わり、地産地消への取組や都市住民との交流を含め、グリーン・ツーリズムの推進にも貢献している。
- ・ 野上氏が手掛ける掛け干しは、長さ200mの美しい曲線を描き、尾木場の棚田の秋の風物詩となっており、その曲線は人の手と山の風景が作る芸術品とも言われ、その取組は各種メディアでも紹介され、高齢化が進む県内外の農村地域の模範となる取組となっている。

<地域への波及効果>

- ・ 野上氏の棚田保全の功績と熱意が認められ、県の棚田等保全活動協賛事業や市の棚田等文化的景観保全モデル対策事業に採択されるなど、耕作放棄地の発生防止・解消にも尽力している。
- ・ 野上氏の功績により、「尾木場地区めだかの里保全委員会」が農林水産省主催の「平成18年度田園自然再生活動コンクール」において、先人の努力を継承した農といのちを育む取組が評価され、「美しい郷と営み賞」を受賞し、地域住民の更なる活動への意欲が高まる機会となった。

- 野上氏の取組が、尾木場から高山地区全体へと波及し、高山地区住民全員が会員となる「NPO法人がんばろう高山」の設立・活動につながっている。
同法人は、棚田の保全活動、廃校を活用した都市農村交流、高齢者が出荷する野菜等の運送サポートなどに取り組んでおり、平成26年度には高山地区公民館が、豊かなむらづくり全国表彰の農林水産大臣賞を、平成29年度には同法人が、過疎地域自立活性化優良事列表彰の総務大臣賞を受賞している。

<活動状況写真>



美しい曲線を描く200mの掛け干し



米作り体験イベントで自らも作業



里散策&山菜狩りイベントでの説明



各種メディアによる取材

尾木場の棚田概要

<日置市東市来町養母>

- 総面積：3.9ha
- 棚田枚数：約60枚
- 平均標高：310m

【主なイベント等】

- 米作り体験
- 棚田散策・山菜狩り
- 高山ふるさと秋祭り

日置市東市来町養母 **尾木場の棚田** OKOBA NO TANADA
 (連絡先) 日置市東市来支所 産業建設課 ☎099-274-2111

イベント内容 **山菜狩り・田植え・草取り・稲刈り・収穫祭**

